



2022年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年11月5日

上場会社名 日本パーカライジング株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4095 URL https://www.parker.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松本 満
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 田村 裕保 (TEL) 03-3278-4333
 四半期報告書提出予定日 2021年11月12日 配当支払開始予定日 2021年12月10日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第2四半期の連結業績(2021年4月1日~2021年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第2四半期	57,938	30.7	7,916	167.1	9,474	113.0	5,718	94.7
2021年3月期第2四半期	44,317	△26.1	2,963	△61.1	4,448	△52.0	2,938	△50.0

(注) 包括利益 2022年3月期第2四半期 10,026百万円(159.8%) 2021年3月期第2四半期 3,859百万円(△32.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第2四半期	48.62	—
2021年3月期第2四半期	24.84	—

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首より適用しており、2022年3月期第2四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年3月期第2四半期	226,766	184,872	69.7	1,344.70
2021年3月期	220,210	176,667	68.8	1,288.01

(参考) 自己資本 2022年3月期第2四半期 158,166百万円 2021年3月期 151,499百万円

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首より適用しており、2022年3月期第2四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	12.00	—	14.00	26.00
2022年3月期	—	13.00	—	—	—
2022年3月期(予想)	—	—	—	13.00	26.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日~2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	118,000	18.1	15,000	40.4	17,700	24.7	10,800	8.0	91.82

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料10ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年3月期2Q	132,604,524株	2021年3月期	132,604,524株
② 期末自己株式数	2022年3月期2Q	14,981,892株	2021年3月期	14,981,884株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2022年3月期2Q	117,622,590株	2021年3月期2Q	118,268,266株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が入手している情報及び合理的であるとする一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(会計方針の変更)	10
(セグメント情報等)	11
3. 補足情報	12
(1) 四半期毎の業績の推移(連結)	12
(2) 報告セグメントの所在地別売上高及び利益又は損失の金額に関する情報	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、各国の経済対策やワクチン接種が進展した影響により、国や地域によるばらつきはあるものの、総じてコロナ危機による経済減速から持ち直す動きが継続いたしました。また、わが国経済におきましても、海外の景気回復を受けた輸出増加や企業生産・設備投資に持ち直しの動きが見られるなど回復基調で推移しました。今後につきましては、ワクチン接種の普及に伴い経済の正常化が期待される一方で、新型コロナウイルスの感染再拡大、世界的な需要急増に伴う半導体不足、原材料価格の高騰などの懸念材料もあり、先行きは不透明な状況となっております。

当社グループの主要な供給先であります自動車業界では、景気回復に伴う旺盛な需要を背景に、生産・販売ともに回復基調で推移しておりましたが、徐々に半導体不足等による生産調整の影響が出始め、国内の自動車生産台数は8月以降前年を下回る水準となりました。もう一つの柱であります鉄鋼業界では、中国で粗鋼減産政策が打ち出されているものの、公共投資や製造業の生産回復が追い風となり、国内では粗鋼生産量が前年を約3割上回るなど堅調に推移しました。

このような状況のなか、当社グループにおきましては、2028年の創業100周年へ向け、当社の企業理念を実現し、持続可能な社会の実現に貢献するため、新たに「Vision2030」を策定いたしました。Vision2030では、「あらゆる表面をカガクで変える」をキャッチフレーズに、あらゆる素材に、様々な機能を付与する表面改質技術の開発に取り組み、コア事業である、薬剤、装置、加工の3つの事業領域で、社会課題の解決に貢献し、社会と共に持続可能な成長・発展を目指しております。「既存分野の深耕と新規分野の開拓」「グローバル展開の加速」「グループ・ガバナンスの強化」「多様な人材の活躍推進」を基本戦略として掲げ、新たな成長ステージを目指した諸施策を推進しております。

この結果、当第2四半期の連結業績は次のとおりとなりました。

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益
当第2四半期累計期間 (2022年3月期)	57,938	7,916	9,474	5,718
前第2四半期累計期間 (2021年3月期)	44,317	2,963	4,448	2,938
増減金額	13,620	4,952	5,026	2,780
増減率	30.7%	167.1%	113.0%	94.7%

売上高は579億38百万円（前年同期比30.7%増）となりました。事業の種類別セグメント毎の売上高は、前年同期に比べ薬品事業が27.8%、装置事業が42.0%、加工事業が32.7%の増収、その他が11.9%の減収で推移しております。また、地域別セグメントは、国内が18.1%、アジアが60.4%、欧米が26.1%といずれも増収で推移しております。

営業利益は79億16百万円（前年同期比167.1%増）、**経常利益**は94億74百万円（前年同期比113.0%増）、**親会社株主に帰属する四半期純利益**は57億18百万円（前年同期比94.7%増）となりました。

この結果、当第2四半期累計期間の**総資産経常利益率**（ROA）は年換算8.4%と前期末に比べ1.9ポイント増加いたしました。また、**自己資本利益率**（ROE）は年換算7.4%と前期末に比べ0.6ポイント増加いたしました。

【為替の影響額】

海外業績の換算による損益計算書に与える影響額は、売上高で8億89百万円程度の増収、営業利益で1億23百万円程度の増益となっております。

【事業の種類別セグメントの概況】

(単位：百万円)

報告セグメント	売上高				セグメント利益又は損失(△) (営業利益)			
	前第2四半期累計	当第2四半期累計	増減額	増減率	前第2四半期累計	当第2四半期累計	増減額	増減率
薬品事業	18,200	23,268	5,068	27.8%	2,333	4,384	2,051	87.9%
装置事業	7,550	10,722	3,172	42.0%	113	326	213	189.1%
加工事業	17,022	22,586	5,564	32.7%	1,179	3,784	2,604	220.9%
その他	1,543	1,359	△184	△11.9%	48	37	△10	△22.1%
調整額(消去)	—	—	—	—	△710	△617	93	13.1%
連結損益計算書計上額	44,317	57,938	13,620	30.7%	2,963	7,916	4,952	167.1%

①薬品事業

売上高は232億68百万円(前年同期比27.8%増)となり、営業利益は43億84百万円(前年同期比87.9%増)となりました。当事業部門は、金属などの表面に耐食性、耐摩耗性、潤滑性など機能性向上を目的とする化成皮膜を施し、素材の付加価値を高める薬剤などを中心に製造・販売しております。国内外ともに半導体不足等に起因する主要顧客の生産調整の影響があったものの、国内では昨年後半からの回復基調が継続し、金属表面処理剤の販売は底堅く推移しました。海外においてもタイ・中国・インド・韓国・インドネシアなどアジア地域での販売回復が大きく、増収増益で推移しました。

②装置事業

売上高は107億22百万円(前年同期比42.0%増)となり、営業利益は3億26百万円(前年同期比189.1%増)となりました。当事業部門は、輸送機器業界を中心に前処理設備、塗装設備及び粉体塗装設備などを製造・販売しております。国内外ともに設備投資持ち直しの動きに支えられ好調に推移しました。特に中国やタイでの伸びが大きく、自動車メーカー向け前処理装置の施工が進捗し、増収増益で推移しました。

③加工事業

売上高は225億86百万円(前年同期比32.7%増)となり、営業利益は37億84百万円(前年同期比220.9%増)となりました。当事業部門は、熱処理加工、防錆加工、めっき処理などの表面処理の加工サービスを提供しております。北米地域ではやや苦戦を強いられましたが、国内及び中国・タイ・インドネシアなどのアジア地域では、主要取引先である自動車部品メーカーの生産回復に伴い大幅な伸びとなり、加工事業全体では増収増益で推移しました。

④その他

売上高は13億59百万円(前年同期比11.9%減)となり、営業利益は37百万円(前年同期比22.1%減)となりました。当事業部門は、ビルメンテナンス事業、太陽光発電事業などを営んでおります。ビルメンテナンス事業では大型の大規模修繕工事を複数件受注したことにより増収増益となりました。一方、前期末にボルトの製造・販売をしている会社を売却したことにより、全体としては減収減益となりました。また、ライフサイエンス事業として、昨年より一般消費者向けに抗菌剤「Pal-feel」の販売を開始しました。併せて、医療機器への参入を進めており、自社開発のコーティング技術により、血液や生体組織の付着を低減した電気メス部品「CHIDORI」の製造販売やカテーテルガイドワイヤーの表面処理加工を行っております。

【投資情報】

(単位：百万円)

	前第2四半期累計期間	当第2四半期累計期間
減価償却費	2,748	2,932
設備投資額	2,426	2,461
研究開発費	970	1,023
有利子負債	1,730	1,437

(2) 財政状態に関する説明

資産合計は、前連結会計年度末と比較し65億56百万円増加し2,267億66百万円となりました。流動資産は50億87百万円増加いたしました。主な要因としては、現金及び預金が28億47百万円、受取手形、売掛金及び契約資産（前連結会計年度末においては受取手形及び売掛金）が3億62百万円、棚卸資産が9億82百万円増加したことなどが挙げられます。固定資産は14億69百万円増加いたしました。主な要因としては、有形固定資産が6億37百万円、投資その他の資産が7億41百万円増加したことなどが挙げられます。

負債合計は、前連結会計年度末と比較し16億48百万円減少し418億94百万円となりました。流動負債は24億56百万円減少いたしました。主な要因としては、支払手形及び買掛金が9億82百万円、未払法人税等が5億17百万円それぞれ減少したことなどが挙げられます。固定負債は8億7百万円増加いたしました。

純資産合計は、前連結会計年度末と比較し82億4百万円増加し1,848億72百万円となりました。主な要因としては、利益剰余金が40億92百万円、その他有価証券評価差額金が3億85百万円、為替換算調整勘定が22億17百万円、非支配株主持分が15億37百万円それぞれ増加したことなどが挙げられます。

以上の結果、自己資本比率は69.7%と前連結会計年度末と比較し0.9ポイント増加するとともに、1株当たり純資産は1,344円70銭と56円69銭増加いたしました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年3月期の業績予想につきましては、概ね計画の範囲内で推移しているものと判断し、2021年5月12日の「2021年3月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」で公表いたしました通期の連結業績予想から変更はありません。

【通期連結業績（2022年3月期）の見通し】

(単位：百万円)

	2022年3月期 (予想)	前期比	進捗率 (第2四半期)
売上高	118,000	18.1%	49.1%
営業利益	15,000	40.4%	52.8%
経常利益	17,700	24.7%	53.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	10,800	8.0%	53.0%

(通期予想は、現時点の入手可能な情報に基づき判断したものであり、経済情勢の変化、市場の動向、為替レートの変動などにより乖離する可能性があります。)

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度末 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間末 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	66,589	69,437
受取手形及び売掛金	36,934	—
受取手形、売掛金及び契約資産	—	37,296
有価証券	566	829
商品及び製品	2,684	2,962
仕掛品	2,053	2,132
原材料及び貯蔵品	4,617	5,243
その他	2,776	3,419
貸倒引当金	△1,434	△1,445
流動資産合計	114,788	119,876
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	23,271	23,382
機械装置及び運搬具（純額）	15,426	16,260
土地	16,370	16,467
建設仮勘定	2,191	1,863
その他（純額）	1,635	1,558
有形固定資産合計	58,895	59,532
無形固定資産	2,410	2,501
投資その他の資産		
投資有価証券	33,006	32,584
退職給付に係る資産	3	31
繰延税金資産	1,638	2,178
その他	9,597	10,192
貸倒引当金	△130	△129
投資その他の資産合計	44,115	44,856
固定資産合計	105,421	106,890
資産合計	220,210	226,766
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	17,028	16,046
1年内返済予定の長期借入金	634	650
未払法人税等	2,694	2,176
賞与引当金	2,644	2,578
役員賞与引当金	70	30
その他	8,907	8,040
流動負債合計	31,978	29,522
固定負債		
長期借入金	560	463
退職給付に係る負債	5,709	5,788
役員退職慰労引当金	231	228
繰延税金負債	3,536	4,341
その他	1,526	1,550
固定負債合計	11,563	12,371
負債合計	43,542	41,894

(単位：百万円)

	前連結会計年度末 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間末 (2021年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,560	4,560
資本剰余金	4,460	4,460
利益剰余金	144,750	148,842
自己株式	△11,745	△11,745
株主資本合計	142,025	146,118
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	10,522	10,907
繰延ヘッジ損益	0	△8
為替換算調整勘定	△1,354	862
退職給付に係る調整累計額	305	286
その他の包括利益累計額合計	9,473	12,048
非支配株主持分	25,168	26,705
純資産合計	176,667	184,872
負債純資産合計	220,210	226,766

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
売上高	44,317	57,938
売上原価	29,944	37,581
売上総利益	14,372	20,356
販売費及び一般管理費	11,409	12,440
営業利益	2,963	7,916
営業外収益		
受取利息	137	133
受取配当金	384	258
受取賃貸料	389	402
持分法による投資利益	137	339
為替差益	—	262
補助金収入	408	33
その他	602	413
営業外収益合計	2,060	1,842
営業外費用		
支払利息	15	18
賃貸費用	150	180
為替差損	228	—
その他	180	85
営業外費用合計	575	283
経常利益	4,448	9,474
特別利益		
固定資産売却益	4	6
投資有価証券売却益	776	0
その他	9	—
特別利益合計	790	6
特別損失		
固定資産除売却損	49	41
投資有価証券売却損	39	—
その他	2	0
特別損失合計	90	42
税金等調整前四半期純利益	5,147	9,438
法人税等	1,748	2,415
四半期純利益	3,398	7,023
非支配株主に帰属する四半期純利益	460	1,304
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,938	5,718

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
四半期純利益	3,398	7,023
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,641	364
繰延ヘッジ損益	△61	0
為替換算調整勘定	△2,032	2,206
退職給付に係る調整額	4	△19
持分法適用会社に対する持分相当額	△91	450
その他の包括利益合計	460	3,002
四半期包括利益	3,859	10,026
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,935	8,293
非支配株主に係る四半期包括利益	△75	1,732

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用計算

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税金等調整前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税金等調整前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首より適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識しております。収益認識会計基準等の適用による主な変更点は以下のとおりです。

(1) 工事契約に係る収益認識

従来は請負工事契約に関して、進捗部分について成果の確実性が認められる工事には工事進行基準を、それ以外の工事には工事完成基準を適用しておりました。これを第1四半期連結会計期間より、一定の期間にわたり充足される履行義務は、期間がごく短い工事を除き、履行義務の充足に係る進捗度を見積り、当該進捗度に基づき収益を一定の期間にわたり認識することとしております。なお、履行義務の充足に係る進捗度の見積り方法は、見積総原価に対する実際原価の割合(インプット法)で算出しております。履行義務の充足に係る進捗度を合理的に見積もることができないが、発生する費用を回収することが見込まれる場合は、原価回収基準にて収益を認識しています。

(2) 代理人取引に係る収益認識

薬品事業の商品販売取引について、従来は顧客から受け取る対価の総額を収益として認識しておりましたが、第1四半期連結会計期間より、当社グループの役割が商品を他の当事者によって提供されるように手配する取引については、顧客から受け取る額から仕入先に支払う額を控除した純額で収益を認識する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用しておりません。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高が864百万円、売上原価が692百万円、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益が172百万円それぞれ増加しております。また、利益剰余金の当期首残高へ与える影響額は軽微であります。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、第1四半期連結会計期間の期首より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することといたしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首より適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用しております。これによる四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	薬品事業	装置事業	加工事業	計				
売上高								
(1)外部顧客に対する 売上高	18,200	7,550	17,022	42,774	1,543	44,317	—	44,317
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	405	190	17	612	68	680	△680	—
計	18,605	7,741	17,039	43,386	1,611	44,998	△680	44,317
セグメント利益又は 損失(△)	2,333	113	1,179	3,626	48	3,674	△710	2,963

- (注) 1 「その他」は、報告セグメントに含まれない区分であり、ビルメンテナンス事業、太陽光発電事業などを
含んでおります。
- 2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△710百万円には、セグメント間取引消去87百万円、各報告セグ
メントに配分していない全社費用△798百万円が含まれております。なお、全社費用は、各報告セグメントに
帰属しない一般管理費及び技術研究費であります。
- 3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	薬品事業	装置事業	加工事業	計				
売上高								
(1)外部顧客に対する 売上高	23,268	10,722	22,586	56,578	1,359	57,938	—	57,938
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	675	277	16	969	65	1,035	△1,035	—
計	23,943	10,999	22,603	57,547	1,425	58,973	△1,035	57,938
セグメント利益又は 損失(△)	4,384	326	3,784	8,496	37	8,533	△617	7,916

- (注) 1 「その他」は、報告セグメントに含まれない区分であり、ビルメンテナンス事業、太陽光発電事業などを
含んでおります。
- 2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△617百万円には、セグメント間取引消去204百万円、各報告セグ
メントに配分していない全社費用△821百万円が含まれております。なお、全社費用は、各報告セグメント
に帰属しない一般管理費及び技術研究費であります。
- 3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 補足情報

(1) 四半期毎の業績の推移(連結)

2022年3月期(連結)

(単位:百万円)

	第1四半期 2021年4月～6月	第2四半期 2021年7月～9月	第3四半期 2021年10月～12月	第4四半期 2022年1月～3月	通算 2021年4月～2022年3月
売上高	28,255	29,682			57,938
売上総利益	10,309	10,046			20,356
営業利益	4,141	3,774			7,916
経常利益	4,932	4,542			9,474
税金等調整前当期純利益	4,928	4,510			9,438
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,017	2,701			5,718
総資産	221,987	226,766			—
純資産	180,439	184,872			—

2021年3月期(連結)

(単位:百万円)

	第1四半期 2020年4月～6月	第2四半期 2020年7月～9月	第3四半期 2020年10月～12月	第4四半期 2021年1月～3月	通算 2020年4月～2021年3月
売上高	20,793	23,524	25,376	30,223	99,918
売上総利益	7,138	7,234	9,830	10,383	34,586
営業利益	1,199	1,764	3,884	3,832	10,681
経常利益	1,554	2,893	4,420	5,328	14,197
税金等調整前当期純利益	1,537	3,609	4,456	6,857	16,462
親会社株主に帰属する 当期純利益	716	2,221	2,916	4,144	9,999
総資産	211,080	214,504	215,409	220,210	—
純資産	168,226	171,688	172,177	176,667	—

2020年3月期(連結)

(単位:百万円)

	第1四半期 2019年4月～6月	第2四半期 2019年7月～9月	第3四半期 2019年10月～12月	第4四半期 2020年1月～3月	通算 2019年4月～2020年3月
売上高	30,696	29,270	28,769	30,291	119,028
売上総利益	10,733	10,332	9,855	9,290	40,211
営業利益	3,957	3,652	3,188	1,802	12,601
経常利益	5,146	4,116	3,903	2,557	15,723
税金等調整前当期純利益	5,244	4,040	3,936	2,338	15,560
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,421	2,454	2,383	1,190	9,449
総資産	220,381	216,275	220,754	216,773	—
純資産	169,438	170,655	172,474	170,947	—

(2) 報告セグメントの所在地別売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

報告セグメント		売上高				セグメント利益又は損失(△)			
		前第2四半期連結累計期間	当第2四半期連結累計期間	増減額	増減率	前第2四半期連結累計期間	当第2四半期連結累計期間	増減額	増減率
薬品事業	日本	11,775	14,141	2,366	20.1%	1,183	2,297	1,114	94.2%
	アジア	6,059	8,564	2,504	41.3%	824	1,670	845	102.5%
	欧米	365	562	197	54.0%	99	166	66	67.3%
	セグメント間の内部売上高又は振替高	405	675	269	66.5%	226	250	23	10.6%
	計	18,605	23,943	5,337	28.7%	2,333	4,384	2,051	87.9%
装置事業	日本	4,757	4,597	△159	△3.4%	90	84	△6	△6.8%
	アジア	2,593	5,842	3,249	125.3%	26	211	185	701.3%
	欧米	199	281	82	41.3%	△45	△42	2	6.4%
	セグメント間の内部売上高又は振替高	190	277	86	45.6%	41	73	31	76.2%
	計	7,741	10,999	3,258	42.1%	113	326	213	189.1%
加工事業	日本	10,286	13,363	3,076	29.9%	1,316	2,753	1,436	109.1%
	アジア	3,919	5,805	1,885	48.1%	145	1,160	1,015	700.1%
	欧米	2,816	3,417	601	21.3%	△408	△226	182	44.5%
	セグメント間の内部売上高又は振替高	17	16	△0	△1.8%	126	97	△29	△23.1%
	計	17,039	22,603	5,563	32.7%	1,179	3,784	2,604	220.9%
報告セグメント計		43,386	57,547	14,160	32.6%	3,626	8,496	4,869	134.3%
その他	日本	1,518	1,359	△158	△10.5%	34	37	3	9.2%
	アジア	25	—	△25	—	21	—	△21	—
	欧米	—	—	—	—	—	—	—	—
	セグメント間の内部売上高又は振替高	68	65	△2	△3.1%	△7	0	7	103.3%
	計	1,611	1,425	△186	△11.6%	48	37	△10	△22.1%
合計		44,998	58,973	13,974	31.1%	3,674	8,533	4,859	132.2%
調整額		△680	△1,035	△354	△52.0%	△710	△617	93	13.1%
連結損益計算書計上額		44,317	57,938	13,620	30.7%	2,963	7,916	4,952	167.1%

所在地別セグメント情報

(単位：百万円)

所在地	売上高				営業利益			
	前第2四半期連結累計期間	当第2四半期連結累計期間	増減額	増減率	前第2四半期連結累計期間	当第2四半期連結累計期間	増減額	増減率
日本	29,688	36,175	6,487	21.9%	2,724	5,255	2,530	92.9%
アジア	12,768	20,348	7,580	59.4%	1,021	3,059	2,037	199.4%
欧米	3,384	4,265	881	26.0%	△353	△109	243	69.0%
合計	45,840	60,789	14,949	32.6%	3,393	8,204	4,811	141.8%
調整額	△1,522	△2,851	△1,328	△87.3%	△429	△288	140	32.7%
連結損益計算書計上額	44,317	57,938	13,620	30.7%	2,963	7,916	4,952	167.1%